

2012年12月のユーラシア大陸の寒波について

東アジア北部からロシア西部までのユーラシア大陸では強い寒気の影響を受け、気温が平年より低くなった。東アジア北部では11月末以降、ロシア西部では12月下旬に異常低温となった。

1. 寒波の経過

11月末以降のユーラシア大陸で発生した異常低温の状況を表1にまとめた。図1に示した週ごとの気温平年差で見ると、11月末から12月上旬に、中央シベリアから中国北東部で平年より6℃以上低くなり、その後、平年差-6℃以下の領域は中央アジア・ロシア西部へと広がった。図2に主な地点の気温の経過をそれぞれ掲載した。

日本では、12月中旬に一時的に気温の高い時期があったものの、全国的に気温が低く、特に12月5日～11日は西日本でも異常低温となった。

表1 11月末以降の異常低温

期 間	地 域	異常低温の状況
11月28日～ 12月4日	中国北東部	上空の寒気の影響を受けた。中国へイロンチアン(黒竜江)省のタイライ(泰来)では、3日の日最低気温が-25℃を下回った。
12月5日～ 12月11日	バイカル湖周辺～ 西日本	上空の寒気の影響を受けた。中国リャオニン(遼寧)省のシェンヤン(瀋陽)では、8日の日最低気温が-24℃を下回った。
12月12日～ 12月18日	中央シベリア南部～ カスピ海周辺	北からの寒気が入った。カザフスタンのアスタナでは、15日と17日の日最低気温が-40℃を下回った。
12月19日～ 12月25日	中国北東部～ロシア 西部	大陸の高気圧の勢力が強く、寒気が入った。ロシアのモスクワでは、24日の日最低気温が-25℃を下回った。

2. 大気の流れの特徴(図3)

12月中旬以降、ユーラシア大陸で広く顕著な低温となったが、この時期にシベリア高気圧がロシア北西部まで張り出し、シベリア南部の寒気が中央アジアからロシア西部にかけて流入した。

日本を含む東アジアでは月を通して偏西風が南に蛇行する傾向となり、北極からの強い寒気が入りやすい流れとなった。月の後半は優勢なシベリア高気圧に伴って強い寒気が流入した。

なお、高緯度で高気圧が例年より強まるなど北極振動の特徴も一部で見られているものの、現状では、寒気の中緯度への吹きだしはユーラシア大陸に限られており、典型的な北極振動とはなっていない。

※気象庁ホームページ「世界の異常気象」

(http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/extreme_world/index.html)

において、最近の世界の異常気象や気象災害の状況を週、月、季節別にまとめていますので、あわせてご利用ください。

[この件に関する連絡先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課
03-3212-8341 内線3157、3158]

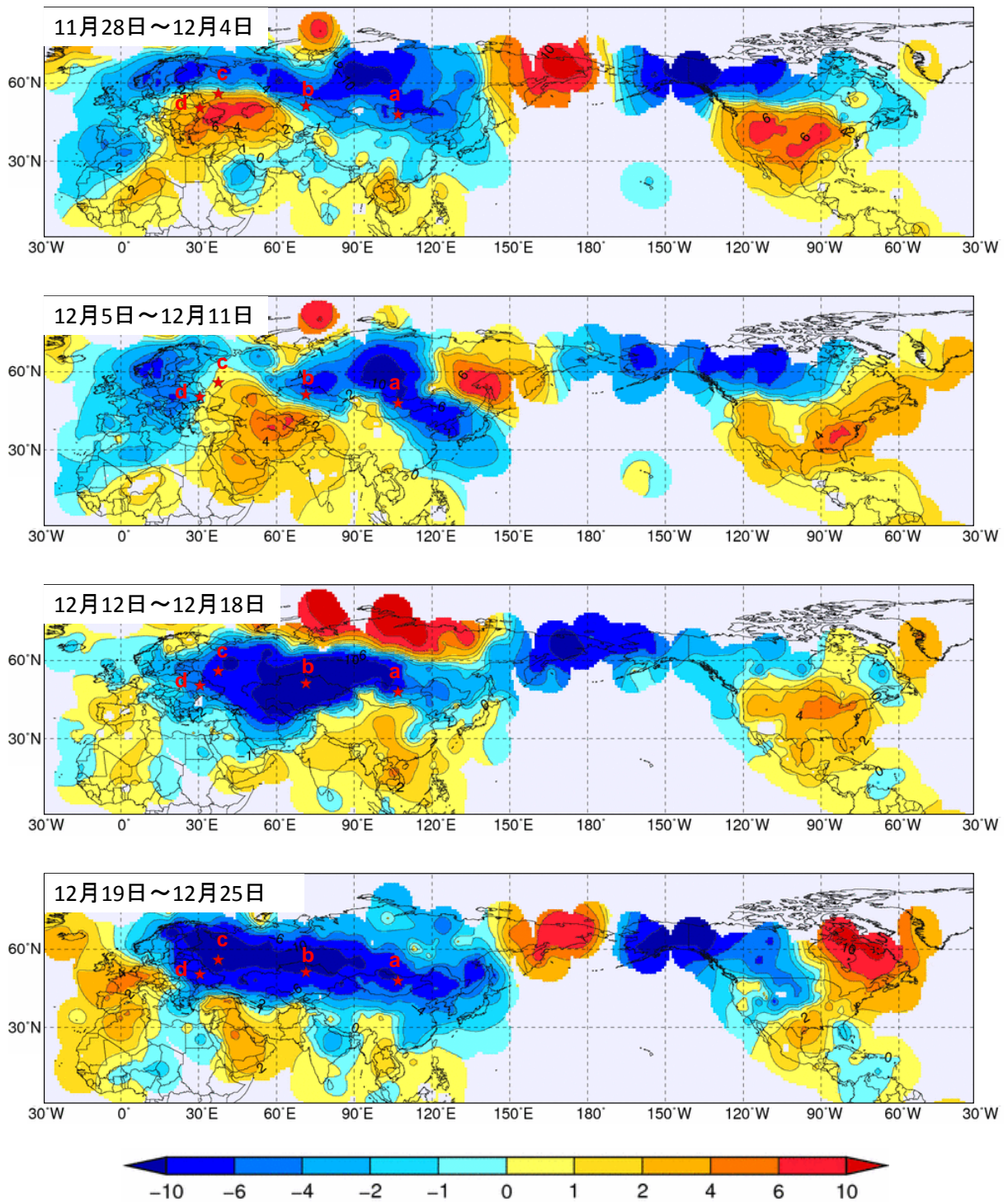


図1 2012年11月28日から12月25日の週ごとの気温平年差(°C)

各国からの通報データによる。図中の星印(a~d)は以下の各地点の位置を示す。
 a: モンゴル・ウランバートル、b: カザフスタン・アスタナ、c: ロシア・モスクワ、
 d: ウクライナ・キエフ

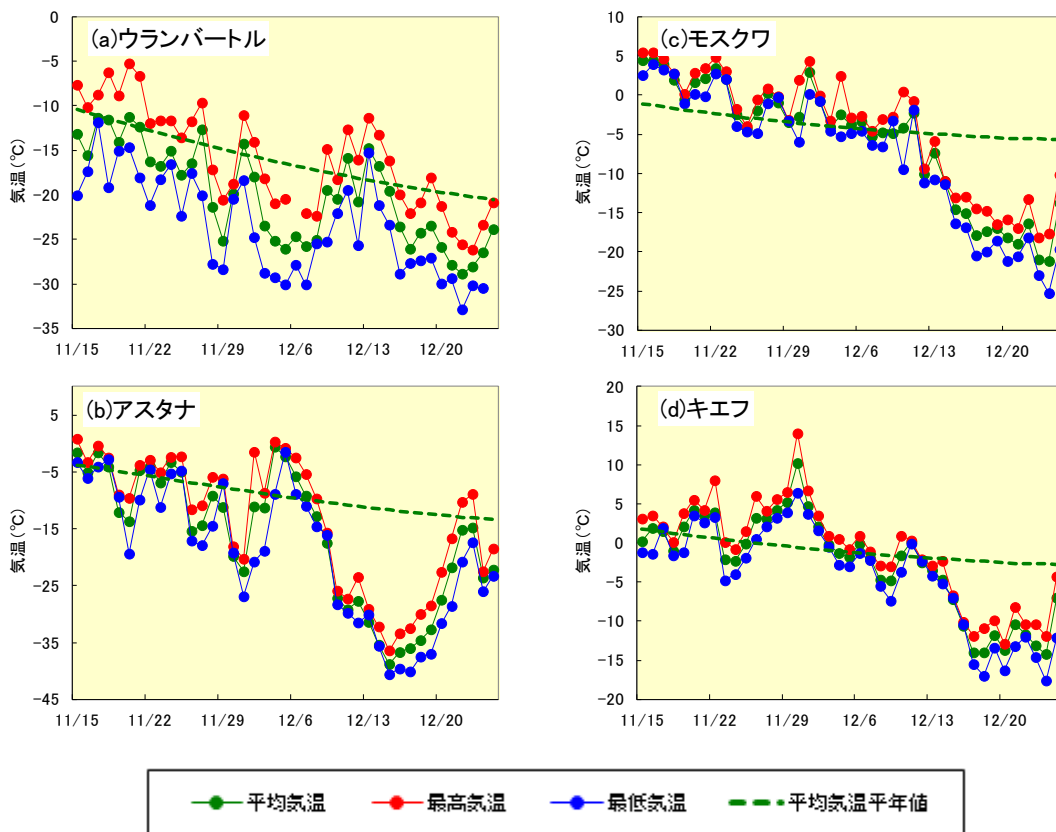


図2 各地点での気温の2012年11月15日から12月25日の経過
 実線は気温の観測値、点線は気温の平年値（単位：℃）。各国からの通報データによる。

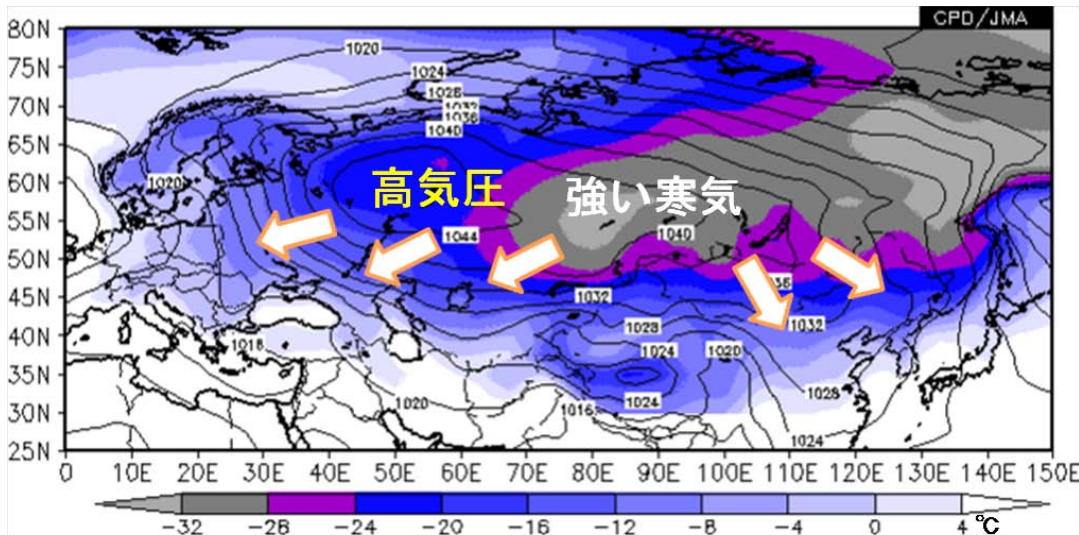


図3 海面気圧と地表付近の気温（2012年12月11～24日平均）
 黒実線は海面気圧（hPa）、寒色陰影は地上2mの気温（℃）を表す。矢印は寒気の流れを示す。